

聴覚障害の職員から

主任児童指導員 菊永ふみ

私は幼い時に口話の訓練をした。そのおかげで、流暢に話せるようになった（と他人は言う）。しかし、自分では、手話が目の前になければ、友達や家族間で交わされる会話でも聞き取ることができず、理解した内容にも確信が持てない。それは、人の気持ちを思いやりたくてもできなく、その時々自分の気持ちを自由に表して自分らしく生きる、ということは難しい、とも言える。

健聴者と音声日本語で関わっていけると信じて努力した賜物の口話技術も、結局は、通じないという現実を私に突き付け、その都度、私は、絶望の淵へ落とされることを繰り返してきた。

大学生の頃、聴覚障害者の老人ホームを訪問した。お年寄りが手話で自由に語り合う姿を見て、「手話を使って生きるとは幸せなことだ」「私も手話の存在に何度も支えられてきたのだ」と悟った。そして、その時、初めて、「聴覚障害者にとっての手話は生きる力そのもの」という言葉の意味を理解することができた。

家庭の事情で親と離れて暮らさざるを得ない子どもたちにとって、心の底から自分を受け止めてくれる存在が何よりも必要である。聴覚障害の子どもには、自らの言語である手話と同じ聴覚障害の仲間、そして、聴覚障害に理解のある健聴者による集団が絶対に必要である。そのような場を無くしてはいけない。手話での何気ない一言、自然に手と表情と口の動きで交わされるやり取りが、心の滋養になり、遅く自分らしく生きることの礎だからである。



児童指導員 柳真弓

私は、家族全員が聞こえない家庭に生まれました。家族同士の会話はもちろん、親や兄の友人、自分の友人が、いつも集まっていて、会話や情報が目の前で飛び交い、理解し合って行動する環境で育ちました。

教育は、幼児期からすべて普通教育（聞こえる子どもたちと一緒にです）でした。少ない情報しか入らない学校は、完全な異国の空間で、私は、事後報告で動き、気を配りたくても役に立ちたくてもできず、「ありがとう」と言われることもありませんでした。学校生活は、大きな集団に入ることもできず、勉強と1対1あるいは2対1の会話だけでした。

金町学園は、まさに私が育った家庭と同じ言語環境です。子どもたちは、手話を使う職員同士や子どもたち同士の会話を目にするのが当たり前で、その中から自然に必要な情報を得ることができ、成長が促されています。

聴覚障害者としての自信と逞しさを身につけ、学校での学びを得て、心身ともにバランスの取れた大人に育つ、そのための重要な役割を金町学園は担っていると思います。



(社会福祉法人)

聴覚障害児の会

設立準備会だより

聴覚障害児の会設立準備会事務局 〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-33-22-203
TEL.03-5980-8420 FAX.03-3918-4472
URL <http://roujishien.com>

施設建設資金の ご支援をお願いします

聴覚障害児の会設立準備会 事務局長 濱崎久美子
(現金町学園長)



昨年7月の金町学園閉園決定以降、子どもたちにとって最善の解決方法は、聞こえない子たちが集う施設に移す事であるとのゆるぎない信念の下に、新法人準備会を設立して努めてきました。

この1年の歩みの中で、障害児の入所施設というものが制度面で置き去りにされてしまっている現実を突きつけられて苦しい思いもしましたが、同時に多くの方たちの励ましや支援もいただくことができました。現在私たち準備会は、仮に公的補助がなくても自力でも施設を建設するという決意を固めたところです。いよいよこれからが本当の頑張りどころです。長丁場になりますが、継続してのご支援をよろしく願いいたします。

- 国庫補助金交付を!の署名活動は、1万3千筆強に
28年6月、東京都聴覚障害者連盟が主導して全都のろう者協会、手話サークル関係、都立ろう学校PTA連合会、長崎県等その他の情報提供施設等全国至る所で実施してくださいました。これをいつどこへどのように使わせていただくのが最も効果的か、と協議しているところです。ありがとうございました。
- 7月、東京都へ国庫補助申請書を提出しました
しかし、補助金交付の現状は厳しく確証は持てないためそれを待つだけでは、期日の差し迫った新施設の問題は解決できません。
- 自力建設に向けて
そこで、補助金に頼らず、自力で建設する方向を検討し

ています。それは、借地をして建設するというものです。
必要な土地(借地):約200坪
ろう学校の幼・小・中・高等部へ、1時間程度で通学できる最寄駅から徒歩10分程度
建 物:3階建て、定員30名の施設規模
建設費用:約3億円

そのために

- 現状を知ってもらうためのDVDを制作し日本及び世界に発信、支援を求めることになりました。
DVD出来上がり・公開予定 11月1日
制作/NPO法人Ubdobe
経費はすでにクラウドファンディングで達成されました。皆様に感謝です。
- 寄付のご依頼
DVD公開と共に、企業等へも積極的をお願いする予定です。
- 寄付金の振込先
金融機関 みずほ銀行 大塚支店(193)
口座種別 普通預金
口座番号 2280813
口座名義 社会福祉法人聴覚障害児の会設立準備会
- 連絡先等
担当者:準備会事務局長 濱崎久美子
電 話:080-4668-4941
e-mail:hamazaki@roujishien.com

メッセージ

聴こえない子どもたちの居場所の必要性を、 社会の皆さんに知っていただきたい

「聴覚障害児の会」設立準備会事務局長
濱崎久美子

ろうあ児施設『金町学園』は、昭和8年に、聴覚障害者に手に職をつけさせ、社会自立につなげることを目的に「東京ろうあ技芸学園」として創設、今年で83年目になります。しかし、専門性のある職員補充の難しさや施設老朽化に伴い、平成30年3月に閉園することが決まりました。

『金町学園』は、家庭に代わって子どもたちを育てる役割を担っています。家族が自由に言葉を交わして毎日の生活を営むように、ここでは、手話をベースに、口話、筆談等を駆使して、子どもと職員の意思疎通が、自由に豊かに楽しく行われています。

今は、28名の子どもたちが生活し、都立ろう学校へ通学しています。彼らに共通しているのは、聞こえないこと。同じ日本人でありながら、音声日本語とはコミュニケーションの壁があり、自分の発言や意見が正しく伝わっているのかどうかさえ確認しにくい日常を、同じ障害のある仲間と共に、共通の言語『手話』で生活することは、みんなが持つ不安や寂しさを安心と意欲に変えてくれます。『共通』のもつ力が『大地』となって、一人一人に社会に踏み出す自信と積極性を育てるのです。

聴覚障害者にとっての手話は生きる力そのもの。家庭の事情で親と離れて暮らさざるを得ない聴覚障害の子どもたちにとって、心の底から自分を受け止めてくれる存在は何よりも重要です。手話での何気ない一言、自然に手と表情と口の動きで交わされるやり取りが、心の滋養となり、たくましく自分らしく生きることの源になっています。（職員／菊永ふみ）

首相公邸に子どもたちが招かれたことがきっかけで、「この機会に学園の存在や存続の意義を動画として発信しよう」との提案につながりました。私が金町学園のことを知らなかったように、多くの方がその存在を知らない。居場所がなくなったら困る子どもたちがいるなら、僕たちが得意とする発信で皆さんに知らせよう！（NPO法人Ubdobe）



子どもたちは『休憩！』といっても全然休まないし、細かいところまでしっかり身に付けようとしてくれる。リハーサルをすればするほどそのクオリティは上がっていき、みんなのおかげで短時間で素敵なダンスが出来上がった。子どもたちの笑顔を見ていたら、彼らの居場所としての『金町学園＝入所施設』がいかに重要かを理解しました。動画は説得力のある内容に仕上がると思います。（中浜）

夏休みに金町学園の子どもたちが、公邸に遊びに来てくれました。生演奏にあわせて、子どもたちとヒップホップダンスを踊りました。子どもたちは、リズムや見よう見まねで一生懸命ダンスを習得し、短い時間で非常に恰好良く踊れるようになりました。私は、耳が聞こえないという個性を持った子どもたちが、その個性を生かしながら、将来に希望を持ち、毎日笑顔で生活してほしいと心から願っています。そのためには、このような施設がこれからも存続されることが必要だと思っています。子どもたちのため、みなさんの温かいご支援をいただければ嬉しく思います。（安倍昭恵首相夫人）

施設は一つの家族です。すべてが聴者中心に回っている社会で、聴覚障害者として生きるためのノウハウが、職員から子どもたちへ、成長した子どもから新しく入所した子どもへと受け継がれています。

この世の中に、聴こえない子どもがゼロになることはありません。ここは絶えず在り続けなければならない場所です。閉園が決まってしまった今、この施設の必要性を世の中の人たちに広く知ってもらふことから、私たちは始めなければならないと感じています。どうかお力を貸してください。



支援者のコメントから

- ★「あり続けなければならない場所」という言葉が胸に刺さりました。「帰る家」として必要とする子どもがいる限り、入所施設があり続けられますように。
- ★石狩翔陽高校ボランティア局です。金町学園閉鎖のニュースは、福祉関係のサイトや聴力障害新聞で知りました。また、クラウドへの協力は、ユニバーサル社会を目指すによるものです。継続的な支援が必要であれば、私たちが訴えを起こす用意があります。一緒に頑張りましょう！
- ★私は今、大人の聴覚障がいを持つみなさんの収入を上げる支援をしています。子ども達の居場所を守ってあげることに、障害は関係ありません。この現実にも負けることなく生きていく力を育ててあげてください。
- ★先月、とても素敵な笑顔に出会い、元気をもらいました。子供たちの笑顔、そして居場所を守るために、
- ★こうした地味で地道な、しかし聴覚障害を持つ方にとって欠くべからざる場が、これからも安定して存続されることを願います。
- ★ろう児の居場所、手話の集団がなくならないように！
- ★是非、施設を存続させてください。時間がかかるかもしれませんが応援してくれる人はたくさんいると思います。
- ★手話を習い始めて2年めです。周りに聴覚障害の知り合いがたくさんできました(^-^)/皆さんが暮らしやすい環境が整うといいですね。
- ★一度金町学園にお邪魔させていただいたこともありますが、そのときにここを必要としている子がたくさんいることを実感しました。
- ★大事な「もの」(形と心)を継続していきましょう！
- ★先日映画館で「聲の形」を見ました。とても感情を揺さぶられ、そのあと直ぐに本も買って読みました。誰もが生きやすい社会を目指して共に頑張りましょう。
- ★子供たちがばらばらにならず、笑顔で暮らせる施設の存続を願ってます。
- ★聴こえない子どもが安心して暮らせている環境を守るのもあるけれど、こんなに大きく(中高生ぐらい?)なってから、家庭に返されるとか(元々事情があつてきているのに)、他の里親のところへ行って想像を絶するストレスだと思うのです。なんとか、このままここで生活させてあげたい...そんな気持ちで応援します。
- ★私の仕事の原点も、聴覚に障害のある母親の影響でした。素敵な居場所がずっと残り続けることを祈念しています！
- ★大切な居場所を失わないために！安心して生活し成長できる

環境を！たくさんの困難と闘っている子ども達。まだ闘わなければなりませんか？どうにも出来ない事はあるけど、どうにか出来る事なら、みんなで善くなるよう行動しよう！

- ★葛飾区に生まれてから22年。恥ずかしながらもはじめて存在を知りました。このような素晴らしい取り組みをなくしてはいけません！！ 職員さんの頑張りと、子どもたちの幸せに万歳！少しでも支援になれば幸いです。
- ★将来を担う子供たちが、笑顔で学生生活を送れるように、私たち大人が声を上げていかなければなりません。
- ★金町学園の今後を見守らせて頂きたいと思います。障害があるのが無かるうが、必要とする子供達の居場所を護って下さい。
- ★残念ながら聴覚障害者がいなくなることはないのだから、絶対に存続しなければならない施設。その通りだと思いました。一度途絶えてしまった流れは元に復活させるのは困難です。
- ★子どもたちの笑顔と居場所を守るのは、大人の責任でもありますよね。
- ★神は乗り越えられる試練しか与えないという言葉に信じています。共に頑張りましょう！
- ★居場所それがない人、失った人、どこなのか判らなくなった人。たくさんいます。自分の居場所へ、自分の居場所作りへと一歩踏み出す人を見送る峠の茶屋を少しずつ実現していこうとしています。資金だけではできないけれど、資金がないと成らない。痛いほど解ります。
- ★奈良県立筒井寮の日中一時サービスを利用しています。入所児童が少ない、建物の老朽化が理由で平成31年にろう学校の隣接地から遠方への移転です。県にひとつのろう学校に通うために多くの保護者が安心して利用できる施設がなくなると思っています。金町学園は、学習の補助などが積極的に行われ、ろう児にとって必要な施設であると伺っています。また、障害を理由に苦痛を受けている子供達の逃げ場所として絶対に必要な場所です。絶対に存続させてください。絶対です。
- ★金町学園のみなさん、負けるな！頑張り！ろう者の仲間たちが応援してるぞ！
- ★たぶんかユースフェスタでの子どもたちの活躍に感動しました。金町学園がこれからもずっと子どもたちにとって大切なホームであることを願っています。
- ★東日本で唯一の入所施設だとは存じませんでした。東京では次から次へと新しいビルが建っていくのに、本当に必要なものは後回しかほっとかれるのが悲しいです。

